

「チーム」とは？

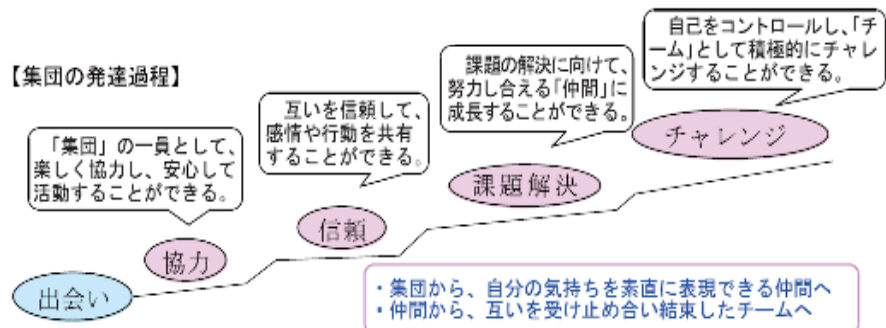
「チーム」の
定義は？

先日の平昌五輪は、日本選手の活躍で大いに盛り上がりました。競技終了後の選手の言葉に「チームのおかげ」「チームの力」「チームの勝利」と、「チーム」という言葉をたくさん聞くことができました。それでは「チーム」とはいったい何でしょうか？

「チーム」とは、「共同で仕事をする一団の人。二組以上に分かれて行う競技のそれぞれの組。」（広辞苑第五版より）と書かれています。「グループ（集団）（共通点をもつ人や物の集まり）」（広辞苑第五版より）とは違う定義です。

「チーム」になる
には？

社会教育・文化財課では、HPで紹介しているように、「グループ（集団）」から「仲間」へ、「仲間」から「チーム」へとステップアップする一連の流れ（下図）に基づき、AFPYの手法を活用した「チーム」作りを学ぶ機会の提供に取り組んでいます。



学校においては、例えば「音楽会」や「運動会」に取り組む中で共通の目的をもち、それに向かい、少しずつ「チーム」になっていくことができます。

新しい年度のスタートです

それぞれの学級や学年、学校全体で個人や集団の成長を図りながら「チーム」作りに向けて取り組む一年間になってほしいと思います。裏面には高等学校の取組を紹介しています。新年度のスタートにぜひ御活用ください。

～社会教育・文化財課のHPで、「心の冒険・サマースクール」AFPYの取組を御紹介しています。～

AFPY

検索

新入生の「仲間づくり」活動の最後に実施
初めてのグループでの課題解決の手始めに

〈ねらい〉初対面同士のグループでの課題解決チャレンジ

『 名言・格言づくり 』

教科・領域	学年活動・その他	時間	15分程度
準備物	名言・格言を1～3字ずつばらばらにしてA4程度の用紙に書いてシャッフルし、封筒に入れたものをグループの数だけ種類を変えて用意する。 (例)『 想/像力/は知/識より/もも/っと大/切な/も/のだ 』		
活動の実際 ※留意点	①完成したときのグループの合図（ポーズと掛け声など）を決めておく。 ②10人程度のグループに分ける。 ③「始め」の合図で、封筒から用紙を取出し確認する。 ④名言や格言になるように用紙を並べ替える。 ⑤完成したら、予め決めていた合図でファシリテータに知らせる。 ⑥ファシリテータが確認して、正しければ完了してグループでふりかえりをする。間違っていれば、再チャレンジする。 ⑦複数のグループが完成し、時間に余裕があれば、課題（封筒）を交換して取り組む。 ⑧全グループが完成したら、グループごとに発表する。		
ふりかえり	<全体で> ・この言葉を聞いたことある？ 誰の言った言葉か知っている？ <人物の紹介、その言葉が出た状況などを解説する> (上記、準備物の例の場合 : アインシュタイン) ・自分の意見や考えを言えましたか？ ・人の意見や考えを聞いて話し合いができましたか？ ・話し合いにはみんなが参加していましたか？ ・言葉が完成したとき（間違ったとき）、どんな気持ちだった？		
継続的な活用	・新入生の「仲間づくり」活動（2時間）の最後に実施した。 ・入学して間もなく、初めて顔を合わすものが多い中で、アイスブレイクから始めて、この時間のまとめとして、割と簡単で会話が出やすい課題解決チャレンジとして使用した。		
子どもたちの感想や変容、等	・見たことはあるが、話したことがないという人も多かったけど、体験を通してたくさんの人に話しかけてもらえたとし、自分からも声をかけることができました。 ・グループ皆で「名言」を完成させることができたときは、自然と拍手が出てうれしい気持ちになりました。 ・普段は話すことがない他の学科の人たちともたくさん話せました。 ・みんなで活動するということが、とても楽しかった。		
実践者からのひとこと	名言・格言の選び方で、ファシリテータのねらいを投げかけることもできる活動です。OBSキャンプのリーディングのようなこと、単に自分の好きな言葉でファシリテータの人となりを知ってもらおうなどでもできます。また、授業などで出てくるフレーズなどを利用して実施することもできるでしょう。 課題難易度は低めなので完成したときの達成感も得やすく、言葉を扱う活動なので、会話も弾むようです。		

(山口県立美祢青嶺高等学校 山崎 敏道先生による実践)

